

授業コード： 2230200300

英文科目名称: Practice in Maternity Nursing

授業種類	【開講】 前期	【授業時間】 15時間					
	【担当教員】						
	【氏名】 ◎八巻 ちひろ 増澤 祐子 上田 恵 五十畑 麻奈美 黒崎 美月 塚田 文枝	【所属】 新潟県立看護大学 同上 同上 同上 同上 同上	【研究室】 309 311 302 共同研究室2 共同研究室6 共同研究室2	【メールアドレス】 cyamaki@niigata-cn.ac.jp masuzawa@niigatqa-cn.ac.jp ueda@niigata-cn.ac.jp isohata@niigata-cn.ac.jp mitukuro@niigta-cn.ac.jp ftukada@niigata-cn.ac.jp			
	実務経験のある教員が担当します						
	【本学の科目区分】 専門科目						
	【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】 看護師課程						
	【DP1】 ○	【DP2】 ◎	【DP3】	【DP4】	【DP5】	【DP6】	【DP7】

到達目標	1. 家族を含む産褥母子の看護過程の展開を通して、対象理解に基づいた対象に応じた看護援助を説明できる。 2. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における健康の保持増進するための実践に繋がる看護援助の知識・技術を表現できる。
授業概要	母性看護学実習における受け持ち実習をする際に対象理解や対象に応じた根拠に基づく看護援助を考察する上で必要となる知識と技術の修得を目指した学修内容で構成している。 正常な経過をたどる褥婦・新生児の事例を通して、ウェルネス志向型看護過程の展開方法について学修し、看護を実践するための基礎的能力を養うことができるよう課題を設定している。 母性看護の対象へのケアに必要な根拠に基づいた看護技術を修得することができるよう課題を設定している。
授業計画	1 授業内容 授業形態：対面 学修課題：ガイダンス、ウェルネス志向型の看護過程の展開 学修内容：母性看護学演習の進め方、ウェルネスの視点での対象の捉え方、事例・記録用紙の説明 事前学修：母性看護学Ⅱの既習内容の復習(20分)、ワークブック・母性看護学演習要項で提示の妊娠期・新生児期の看護に関するDVDを視聴する(全部で15分程度)。 事後学修：自己課題に基づき学修する。 備考：八巻、上田、黒崎 詳細のスケジュール・内容は初回授業時に説明する。 2 授業内容 授業形態：演習(グループワーク) 学修課題：産褥・新生児期の看護過程の展開①-1 学修内容：1) 全身の回復状態と日常生活行動、退行性変化、2) 母乳育児と進行性変化、心理状態・母親適応過程のうち各グループどちらかのアセスメント・看護診断を行う。さらに新生児に関しては全グループ、出生時の状態、胎外生活の適応(呼吸・循環の適応)、成長・発育状況、ビリルビン代謝についてアセスメント・看護診断を行う。 事前学修：グループワークにスムーズに入れるようどこカレ提示の実習記録を用いて情報の整理を行う(1時間程度)。 事後学修：各グループで褥婦・新生児の看護診断まで終わらせ、各グループでどこカレに提出する(期日は事前に提示する)。 備考：担当教員全員 グループの担当教員が第7回の授業時、フィードバックを行う。 3 授業内容 授業形態：演習(グループワーク) 学修課題：産褥・新生児期の看護過程の展開①-2 学修内容：1) 全身の回復状態と日常生活行動、退行性変化、2) 母乳育児と進行性変化、心理状態・母親適応過程のうち各グループどちらかのアセスメント・看護診断を行う。さらに新生児に関しては全グループ、出生時の状態、胎外生活の適応(呼吸・循環の適応)、成長・発育状況、ビリルビン代謝についてアセスメント・看護診断を行う。

	リルビン代謝についてアセスメント・看護診断を行う。 事前学修：グループワークにスムーズに入れるようどこカレ提示の実習記録を用いて情報の整理を行う(1時間程度)。 事後学修：各グループで褥婦・新生児の看護診断まで終わらせ、各グループでどこカレに提出する(期日は事前に提示する)。 備考：担当教員全員 グループの担当教員が第7回の授業時、フィードバックを行う。 4 授業内容 授業形態：演習(グループワーク) 学修課題：産褥・新生児期の看護過程の展開①-3 学修内容：1) 全身の回復状態と日常生活行動、退行性変化、2) 母乳育児と進行性変化、心理状態・母親適応過程のうち各グループどちらかのアセスメント・看護診断を行う。さらに新生児に関しては全グループ、出生時の状態、胎外生活の適応(呼吸・循環の適応)、成長・発育状況、ビリルビン代謝についてアセスメント・看護診断を行う。 事前学修：グループワークにスムーズに入れるようどこカレ提示の実習記録を用いて情報の整理を行う(1時間程度)。 事後学修：各グループで褥婦・新生児の看護診断まで終わらせ、各グループでどこカレに提出する(期日は事前に提示する)。 備考：担当教員全員 グループの担当教員が第7回の授業時、フィードバックを行う。 5 授業内容 授業形態：演習 学修課題：妊産褥婦、新生児への看護技術① 学修内容：妊産褥婦、新生児のヘルスアセスメントに必要な看護技術(レオポルド触診法、新生児の全身状態の観察、沐浴、子宮復古の観察)、妊婦体験の実施 事前学修：技術演習評価表に基づき、アセスメントに必要な観察項目やフィジカルイグザミネーションを理解する(30分程度)。 事後学修：技術演習後、自ら課題を明確にし、曖昧な箇所を教科書や参考書で調べる(10分)。 備考：担当教員全員 演習日はグループにより異なる。各技術に対し、技術演習評価表を用いて演習を行う。 6 授業形態：演習 学修課題：妊産褥婦、新生児への看護技術② 学修内容：妊産褥婦、新生児のヘルスアセスメントに必要な看護技術(レオポルド触診法、新生児の全身状態の観察、沐浴、子宮復古の観察)、妊婦体験の実施 事前学修：技術演習評価表に基づき、アセスメントに必要な観察項目やフィジカルイグザミネーションを理解する(30分程度)。 事後学修：技術演習後、自ら課題を明確にし、曖昧な箇所を教科書や参考書で調べる(10分)。 備考：担当教員全員 演習日はグループにより異なる。各技術に対し、技術演習評価表を用いて演習を行う。 7 授業内容 学修内容：対面・演習(グループワーク) 学修課題：産褥・新生児期の看護過程の展開②-1 学修内容：第2-4回で各グループで検討した母子のアセスメント・看護診断に対し、教員がフィードバックを行う。各グループにおいて簡単に自グループのアセスメント・看護診断を紹介後、他グループとのディスカッション、最後に教員がフィードバックの流れとする。 事前学修：自己課題に基づき学修する。 事後学修：自己課題に基づき学修する。フィードバック・ディスカッション後、グループで修正を検討する。 備考：担当教員全員 講義室を2つに分けて行う。 8 授業 学修内容：演習(グループワーク) 学修課題：産褥・新生児期の看護過程の展開②-2 学修内容：第2-4回で各グループが検討した母子のアセスメント・看護診断に基づき、対象に応じた看護計画を立案する。 事前学修：自己課題に基づき学修する。 事後学修：各グループで褥婦・新生児の計画立案を終わらせ、各グループでどこカレに提出する(期日は事前に提示する)。 備考：担当教員全員 後日、どこカレ上で担当教員から計画立案内容のフィードバックを行う。
評価方法、評価基準	到達目標1に対し、事例展開60%で評価する。評価には演習に臨む姿勢を含めた看護過程の展開評価表(60点満点)を用いる。 到達目標2に対し、技術演習40%で評価する。評価には技術演習評価表(40点満点)を用いる。 なお、両評価表は事前にどこカレで学生に提示する。
必携図書	森恵美, 他編 (2026) : 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学2 第15版, 医学書院 太田操 (2024) : ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程第4版, 医歯薬出版株式会社 石村由利子 (2023) : 根拠と事故防止からみた母性看護技術第3版, 医学書院
参考図書・資料等	佐世正勝, 石村由利子 (2022) : ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図第4版, 医学書院 片岡弥恵子, 加藤千尋 (2025) : 産科フィジカルアセスメント ポケットBOOK 項目ごとに正常か異常か判断できる, 照林社 母性看護学Ⅱで使用したテキスト, 配布資料等
受講、課題、資料配布等のルール	初回の授業前に必ず母性看護学演習要項に目を通すこと。 各回で事前学修を提示する。事前学修をして演習に臨むこと。 20分以上の遅刻・早退は欠席扱いとし、原則補講は行わない。 実習室で行う技術演習は、病院実習に準じた身支度で臨む。 グループワークはグループ全員で協力して課題に臨む。
教員からのメッセージ	本科目は後期の母性看護学実習に直結するので、積極的な姿勢で演習に臨むことを期待する。

オフィスアワー

在室時は可能な限り対応するが、事前のメール連絡が望ましい。